

## 忘却されたヨーロッパ構想

戦間期の中・東欧における「保守革命」とカール・アントン・ロアン公爵

福田 宏 (北大スラブ研究センター)

hfukuda@slav.hokudai.ac.jp

<http://hfukuda.cool.ne.jp/>

### はじめに

1. きっかけはチェコ貴族の研究書 Eagle Glassheim, *Noble Nationalists*, 2005 [18]
  - ・変わらないために変わる “Nobles changed so as to conserve,...” p.48
  - ボルシェヴィズムと土地改革という恐怖
  - ・ミイラ取りがミイラに 高貴なる人間から国民への転身
2. 保守革命研究と Karl Anton Rohan (1898-1973) と北大
  - ・クーデンホーフ＝カレルギー (1894-1972) とロアンの対照性
  - ・北大図書館における Armin Mohler 文庫 約 5,300 冊

### 1 ロアンを研究する 3 つの意義

1. ヨーロッパ統合史の Dark Legacy? ex. Laughland [28]
  - ・クーデンホーフの *PanEuropa* (1923) とロアンの *Europa* (1923)
  - ・PanEuropa Union (1923-) と Fédération des unions intellectuels (1924-)
  - ・機関誌 *PanEuropa* (1923-) と *Europäische Revue* (1925-)
  - ・多彩な交友関係 英植民地相 L. S. Amery, フランスの詩人 P. Valéry, ドイツの作家 T. Mann, チェコスロヴァキア外相 E. Beneš, スペインの哲学者 Ortega y Gasset...
  - ・議会制民主主義への不信, 貴族主義, ファシズムへの傾倒
2. 民主主義とファシズムの間 cf. Mazower [30]
  - ・ヨーロッパにおける民主主義の危機 ボルシェヴィズムかファシズムか
  - ドイツの法学者 M. J. ボン, イギリスの作家 H. G. ウェルズ, 米外交官 G. F. ケナン...
3. チェコスロヴァキア史におけるロアン 「歴史の空白」を埋める?
  - ・民主主義の脱神話化とタブーへの挑戦 中田 [35], T. M. Kelly [25]
  - チェコ・ファシズム D. Kelly [24], 対独協力 Pasák [37],
  - 権威主義的政治文化 Rataj [39], 戦後の「精算」Frommer [15]...
  - ・中欧 Mitteleuropa と中・東欧 Mittel- (Zentral-) und Osteuropa

## 2 保守革命のパラドックス

### 1. 戦争体験と新世代の抬頭

- ・ 塹壕の民主性？, 大衆 = 匿名の支配, テクノロジー
- ・ 真実 Wahrheit よりも適切さ Richtigkeit, 「芸術のための芸術」ではなく実践的なものを！

### 2. 保守革命のイデオログたち

- ・ 保守革命 *Konservative Revolution* と *ホフマンスタール* (1874-1929)
- ・ エドガー・J. ユングによる『劣等者の支配』(1927, 1930<sup>2</sup>)
- ・ オトマール・シュパンの身分制国家 『真の国家』(1921)

## 3 「ヨーロッパ人」および「ドイツ人」としてのロアン

### 1. ネットワークとしての『ヨーロッパ・レヴュー』

- ・ 元貴族としてのロアン (ブルターニュ ブルボン王朝における高位貴族 仏革命後, 亡命 1808 年, ポヘミアに領地を得る 父 Alain Rohan は立憲地主党の上院議員, 母はアウエルスベルグ公爵の娘, ヴァレンシュタイン家の血を引く)

### 2. チェコスロヴァキアにおけるロアン

- ・ 良き協力者としての E. ベネシュと M. ホッジャ
- ・ パンヨーロッパ運動との接点, チェコスロヴァキアとの関係悪化

### 3. ナチズムへの接近と『ヨーロッパ・レヴュー』からの離脱

- ・ 中央党のブリューニング内閣 (1930.3-1932.5) に期待, ヒトラーへの接近
- ・ オーストリア・ナチス党员でありながらドイツ・ナチスからは排除される
- ・ 反セム主義に対する微妙な態度 *Europäische Revue* (1932.8) における 12 本の論考

## おわりに これからの課題

### 1. ヨーロッパ・ネットワークと旧ハプスブルクの貴族 cf. Müller [33]

[...] ヨーロッパ・レヴューは, この大陸 [ヨーロッパ] を死の危険から救うわけではない。それは決定的な問題を解決するわけでは全くない。それは [論考を] 集めるだけである。それは即ち, 寄稿者と読者に対して, 時宜にかなった新しい, 歴史によって必要とされるヨーロッパ性 (*Europäertum*) を提示することができる。またそれは, 国民, 党派, 世界観に関わりなく様々な重要人物の意見を相互に対照し, そしてヨーロッパにおける最も重要な諸問題の状況を読者に説明することによって, 問題を明らかにし, 見通しが利くようにすることができる。つまりそれは, 国民を超えたヨーロッパの連関を明らかにすべく, 物事の対当関係 (*Gegensätze*) を明示しようとするものである。Karl Anton Rohan, "Vorwort des Herausgebers," *Europäische Revue* 1/I (1925) pp.1-2, esp.p.2.

### 2. 中・東欧におけるロアンのヨーロッパ構想

- ・ Elemér Hantos (1882-1946) のドナウ連邦, 独墾関税同盟計画 (1931), ドイツによる中欧概念, 西欧諸国の思惑 (ex. タルデュー・プラン) etc...

## 参考文献

[##] 定期刊行物.

[1] *Europäische Revue*. 1925–1944.

[##] 同時代文献.

[2] リヒャルト・クーデンホーフ＝カレルギー. 『パン・ヨーロッパ』(クーデンホーフ・カレルギー全集第1巻所収). 鹿島研究所出版会, 1970. (*Panuropa*, 1923).

[3] リヒャルト・クーデンホーフ＝カレルギー. 『回想録』(クーデンホーフ・カレルギー全集第7巻所収). 鹿島研究所出版会, 1970. (*Eine Idee erobert Europa*, 1958).

[4] Karl Anton Rohan. *Europa: Streiflichter*. Leipzig, 1923.

[5] Karl Anton Rohan. *Die Aufgabe unserer Generation*. Köln, 1926.

[6] Karl Anton Rohan. *Moskau: Ein Skizzenbuch aus Sowjetrußland*. Karlsruhe, 1927.

[7] Karl Anton Rohan. *Umbruch der Zeit 1923-1930: Gesammelte Aufsätze*. Berlin, 1930.

[8] Karl Anton Rohan. *Schicksalsstunde Europas: Erkenntnisse und Bekenntnisse, Wirklichkeiten und Möglichkeiten*. Graz, 1937.

[9] Karl Anton Rohan. *Heimat Europa: Erinnerungen und Erfahrungen*. Düsseldorf/ Köln, 1954.

[##] 二次文献.

[10] Hans Manfred Bock. "Das 'Junge Europa,' das 'Andere Europa,' und das 'Europa der weißen Rasse': Diskurstypen in der *Europäischen Revue* 1925-1939". In Michael Grunewald, editor, *Le discours européen dans les revues allemandes (1933-1939)/ Der Europadiskurs in den deutschen Zeitschriften (1933-1939)*, pp. 311–351. Berne, Peter Lang, 1999.

[11] Patricia Chiantera-Stutte. "The Ambiguous Heritage of Mitteleuropa: the Resurfacing of Mitteleuropa as a Counter-Image to the EU in Austrian Populism". *Law and Critique*, Vol. 14, No. 3, pp. 325–353, 2003.

[12] Mark Cornwall and Robert J. W. Evans, editors. *Czechoslovakia in a Nationalist and Fascist Europe, 1918-48*. Oxford University Press, *Prospectively* 2007. [http://users.ox.ac.uk/~bcsforum/future\\_events.html](http://users.ox.ac.uk/~bcsforum/future_events.html).

[13] モードリス・エクスタインズ, 金利光 (キム・イグアン) 訳. 『春の祭典 第一次世界大戦とモダン・エイジの誕生』. TBS ブリタニカ, 1991.

[14] Reinhard Frommelt. *Panuropa oder Mitteleuropa: Einigungsbestrebungen im Kalkül deutscher Wirtschaft und Politik*. Deutsche Verlags-Anstalt, Stuttgart, 1977.

[15] Benjamin Frommer. *National Cleansing: Retribution against Nazi Collaborators in Postwar Czechoslovakia*. Cambridge University Press, 2005.

[16] 福田宏. 「忘却されたヨーロッパ構想 戦間期の中・東欧における「保守革命」とカール・アントン・ロアン公爵」. 2006.11.6. スラブ研究センター 2006 年度専任研究員セミナー, 未公開論文.

[17] 原典ヨーロッパ統合史研究会 (代表:遠藤乾)(編). 『ヨーロッパ統合の歴史』. 2007 年刊行予定.

[18] Eagle Glassheim. *Noble Nationalists: the Transformation of the Bohemian Aristocracy*. Harvard University Press, 2005.

[19] デレック・ヒーター著, 田中俊郎訳. 『統一ヨーロッパへの道 シャルルマーニュから EC 統合へ』. 岩波書店, 1994.

[20] ジェフリー・ハーフ著, 中村幹雄, 谷口健治, 姫岡とし子訳. 『保守革命とモダニズム ワイマール・第三帝国のテクノロジー・文化・政治』. 岩波書店, 1991.

[21] 板橋拓己. 「『中欧』の理念とドイツ・ナショナリズム フリードリヒ・ナウマン『中欧論』の研究」. 『北大法学論集』, (1) 55 巻 6 号, pp. 474–429, (2・完) 56 巻 1 号, pp.514–468, 2005.

- [22] Rudolf Jaworski. "Friedrich Naumann a Češi" [フリードリヒ・ナウマンとチェコ人]. In Hans Mommsen, Dušan Kováč, Jiří Malíř, and Michaela Marková, editors, *První světová válka a vztahy mezi Čechy, Slováky a Němci*, pp. 195–206. Matice moravská, Brno, 2000.
- [23] 梶原克彦. 「K. v. シュシュニックと オーストリアの使命 中・東欧の国民国家形成を巡る一考察」. 『法学論叢』(京都大学), (1) 151 巻 1 号, pp. 120–141; (2・完) 151 巻 5 号, pp.142–163, 2002.
- [24] David Kelly. *The Czech Fascist Movement 1922-1942*. Columbia University Press, New York, 1995.
- [25] T. Mills Kelly. "A Reputation Tarnished: New Perspectives on Interwar Czechoslovakia". 2003. (The summary of his presentation spoken at an EES noon discussion on March 26, 2003, Meeting Report 278). <http://www.wilsoncenter.org/topics/pubs/278Kelly.doc>.
- [26] 北村厚. 「1931年の独逸関税同盟計画 『パン・ヨーロッパ』と『アンシュルス』の間で」. 『政治研究』(九州大学), 50号, pp. 101–132, 2003.
- [27] Jiří Kořalka. "Mitteleuropa Friedricha Naumanna jako plán německé hegemonie v Evropě za První světové války" [第一次世界大戦期ヨーロッパにおけるドイツ・ヘゲモニー計画としてのフリードリヒ・ナウマンの中欧]. *Dějiny a současnost*, Vol. 25, No. 1, pp. 12–16, 2003. <http://dejiny.nln.cz/archiv/01-2003/04-12003.html>.
- [28] John Laughland. *The Tainted Source: the Undemocratic Origins of the European Idea*. Warner Books, London, 1998.
- [29] Walter Lipgens. "Europäische Einigungsidee 1923-1930 und Briands Europaplan im Urteil der Deutschen Akten". *Historische Zeitschrift*, Vol. 203, pp. 46–89, 316–363, 1966.
- [30] Mark Mazower. *Dark Continent: Europe's Twentieth Century*. Vintage Books, New York, 2000.
- [31] Guido Müller. "Von Hugo von Hofmannsthal's 'Traum des Reiches' zum Europa unter nationalsozialistischer Herrschaft: Die 'Europäische Revue' 1925-1936/44". In Hans-Christof Kraus, editor, *Konservative Zeitschriften zwischen Kaiserreich und Diktatur: Fünf Fallstudien*, pp. 155–186. Duncker & Humblot, Berlin, 2003.
- [32] Guido Müller. "Richard Coudenhove-Kalergi and Nongovernmental European Projects after the First World War". *Human Security* (平和戦略国際研究所), 9号, pp. 187–192, 2004/05. [http://www.tokai.ac.jp/spirit/archives/human/pdf/hs09/03\\_06.pdf](http://www.tokai.ac.jp/spirit/archives/human/pdf/hs09/03_06.pdf).
- [33] Guido Müller. *Europäische Gesellschaftsbeziehungen nach dem Ersten Weltkrieg: Das Deutsch-Französische Studentenkomitee und der Europäische Kulturbund*. Oldenbourg, München, 2005.
- [34] 村松恵二. 『カトリック政治思想とファシズム』. 創文社, 2006.
- [35] 中田瑞穂. 「『秩序と行動の民主主義』 1930年代チェコスロヴァキアにおける『新民主主義』構想」. 『東欧史研究』, 20号, pp. 26–44, 1998.
- [36] 小野清美. 『保守革命とナチズム E. J. ユングの思想とワイマル末期の政治』. 名古屋大学出版会, 2004.
- [37] Tomáš Pasák. *Český fašismus 1922-1945 a kolaborace 1939-1945* [チェコ・ファシズム (1922-1945) と対独協力 (1939-1945)]. Práh, Praha, 1999.
- [38] アントニー・ポロンスキ, 羽場久滉子監訳. 『小独裁者たち 両大戦間期の東欧における民主主義体制の崩壊』(りぶりあ選書). 法政大学出版局, 1993.
- [39] Jan Rataj. *O autoritativní národní stát: ideologické proměny české politiky v Druhé republice 1938-1939* [権威主義的国民国家をめぐる 第二共和国 (1938-1939) におけるチェコ政治のイデオロギー変化]. Karolinum, Praha, 1997.
- [40] ジャック・ル・リデー著, 田口晃, 板橋拓己訳. 『中欧論 帝国からEUへ』(文庫クセジュ). 白水社, 2004.
- [41] 進藤修一. 「『新しいヨーロッパ』はどう構想されたか 『アウトサイダー』たちのヨーロッパ」. 大津留厚(編), 『中央ヨーロッパの可能性 揺れ動くその歴史と社会』, pp. 247–283. 昭和田, 2006.
- [42] F. スターン, 中道寿一訳. 『文化的絶望の政治 ゲルマン的イデオロギーの台頭に関する研究』. 三嶺書房, 1988.
- [43] 戸澤英典. 「パン・ヨーロッパ運動の憲法体制構想」. 『阪大法学』, 53 巻 3/4 号, pp. 357–391, 2003.
- [44] 戸澤英典. 「中東欧 EU 加盟の世界史的意味」. 『海外事情』, 51 巻 10 号, pp. 53–63, 2003.
- [45] 山口定. 『ファシズム』. 岩波現代文庫, 2006.